

特集 地学地就 の 教育

一般的に、若者が地域間で移動するのは、「進学」「就職」「結婚」というライフイベント時が多いと言われてい
る。特に大学進学の場合には、地元の大学に進みたいが、
学びたい分野がない、あるいは卒業後の就職が心配とい
う高校生の声を聞くことも少なくない。政府が力を入れ
る地方創生の動きは2013年に「地(知)の拠点整備事業
(COC)」として始まり、2015年には大学が地方公共団体
や企業等と一緒にその地域に必要な人材を育成す
ることを支援する「地(知)の拠点大学による地方創生推
進事業(COC+)」に発展した。全国で42件が採択され、
様々な取り組みが始まっている。

国立大学も2016年からの第3期中期計画では、運営交
付金の3つの重点支援枠が設定され、「主として地域に貢
献する大学」「海外の大学と伍して教育・研究を行う大学」
「特色ある専門分野に力を入れる大学」のいずれかに大学
自らが手を上げる形となった。そのなかで、国立大学全
86校のうち55校、全体の約3分の2が「主として地域に
貢献する大学」に手を挙げた。こうした動きを見てみる
と、地方創生の起点として、大学が果たす役割への期待が
大きいことが分かる。

個人的には、地方大学が生き残るには二つの道がある
と考えている。一つは、強力な個性を活かして全国から
学生を集める大学である。そして、もう一つは地域の産
業構造や人材ニーズに対応し、その地域で必要とされる
人材を育成する大学である。今号の特集では、後者に注
目した。これを地域で学び、地域に就職する「地学地就
の教育」と呼び、戦略的に取り組んでいる大学の事例をリ
ポートした。

また、地域の人材ニーズに合致した学部・学科の再編を
行う大学が増えてきている。しかし、地域によって学問分
野に偏りがあるように感じたため、どの地域にどの学問系
統が集中し、不足しているかを進学総研が所有するデー
タに基づいて整理し、考察を加えてみた。本来であれば、こ
れに地域の人材ニーズを掛け合わせて分析していきたい
ところではあるが、このデータだけでも、ある程度地域ご
とに過当競争(レッドオーシャン)になっている分野系統、白
地(ブルーオーシャン)となっている分野系統を可視化で
きたのではないかと感じている。今後、各大学で学部・学
科の再編を考える際の一助になれば幸いである。

(本誌編集長 小林 浩)

CONTENTS

6 地域の大学マーケットを考える

—地域における未開拓分野を探る

25 寄稿 地方創生と大学の視点から

大学なくして地方創生の試みは実現しない

堀 清一郎 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 参事官

30 CASE1 信州大学

地域に根を張り世界へ広がる

34 CASE 2 熊本学園大学

地縁の最大化で地元経済を支える

38 CASE3 東北公益文科大学

庄内で地域課題に取り組み、その成果をそれぞれの出身地に還元する